

1 学校教育目標
教育目標……心身を鍛え、自己実現に向けて、自ら主体的に学ぼうとする生徒の育成 中・長期目標……基礎学力の定着・向上と自律的な生活態度の育成、社会的自立と夢の実現を支援するキャリア教育の推進
2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)
学校運営については、コミュニティ・スクールが導入されることから、家庭や地域との連携強化を一層図る必要がある。学習指導については、引き続き基礎学力の定着に向けての取組を進めるとともに、高校の学習内容もしっかりと定着させるために授業改善に取り組みたい。生徒指導については、保護者との連携・協力のもと、生徒ひとりひとりの情報を全教職員で共有し、組織的な生徒指導に取り組みたい。進路指導については、生徒のニーズにあわせて、早期の個別指導を充実させるとともに、生徒の進路実現に向けて、全教職員で組織的に取り組む必要がある。総合生活科については、地域連携・地域貢献の要として、これまでの取組を充実・発展させていきたい。
3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題
○基礎学力の定着と学習意欲の向上に向けた教育活動の充実 ○基本的生活習慣の定着と規範意識の確立に向けた指導の充実 ○社会的自立と夢の実現に向けた教育活動の推進 ○総合生活科の活性化に向けた教育内容の工夫 ○開かれた学校づくりの推進と校内体制の一層の強化 「チャレンジ目標」(ふくそうは くずさずに そとにでても うつくしく)

□ 学校評価書 4 自己評価				5 学校関係者評価			
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
学校運営	開かれた学校づくりの推進	学校ホームページの更新を学校行事だけでなく、様々な取り組みについて積極的に行う。	学校ホームページの更新が、 4 年間80件以上である。 3 年間60件以上である。 2 年間40件以上である。 1 年間40件未満である。	1	新型コロナウイルス感染症のため、多くの行事が中止や縮小となり、積極的な情報発信には至らなかった。また、ホームページのシステムの不具合により、更新を頻繁に行うことができなかった。	HIPによる情報発信について、今後更に積極的に行ってほしい。田部高校の日常の様子や、各学科、各分掌からの発信なども期待する。また、生徒会役員など、生徒による月1回程度の発信などもよいのではないか。	B
		家庭や地域との連携により、体育大会や文化祭等の学校行事に取り組む。	「学校は、家庭や地域と連携している」と評価した生徒・保護者の割合が、 4 90%以上である。 3 80%以上である。 2 70%以上である。 1 70%未満である。	3	新型コロナウイルス感染症のため、体育大会、文化祭も例年とは異なる方法で実施した。【学校アンケート結果①学校は、家庭・PTAとの連携や地域社会・同窓会との協力のもと、学校教育を推進している:生徒91%保護者87%】		
学習指導	基礎学力の定着・向上に向けた取組の強化	学校設定科目「田部トライアル」や「朝学」等により、基礎学力の定着を図る。	「学校は、学習の基礎固めに取り組んでいる」と評価した生徒の割合が、 4 85%以上である。 3 75%以上である。 2 65%以上である。 1 65%未満である。	4	朝学や全校一斉の漢字テストを実施することで落ち着いた学習習慣が定着してきた。【学校アンケート結果④学校は、学習の基礎固めに取り組んでいる:生徒93%】 ※昨年より3ポイント上昇。	基礎学力の定着を図り、生徒全体の底上げをし、学校のレベルアップに努めてほしい。	B
		定期考査における指導を強化するなど、基礎・基本の定着を図る。	2学期末・学年末における欠点科目のべ数が、 4 25科目未満である。 3 35科目未満である。 2 45科目未満である。 1 45科目以上である。	3	各学期末の補習や考査前の指導により、1学期に比べ、欠点科目数は減少した。 2学期末のべ欠点科目30 ※昨年より1科目増。		
	生徒一人ひとりを伸ばす教育活動の充実	分かりやすい授業の工夫や個別指導等、個に応じた指導を適切に行う。	「学校は、生徒の個性や能力を伸ばす学習指導をしている」と評価した生徒の割合が、 4 85%以上である。 3 75%以上である。 2 65%以上である。 1 65%未満である。	4	研究授業や公開授業、および授業アンケートの実施により授業改善に努めた。【学校アンケート結果③学校は生徒の個性を伸ばす学習指導をしている:生徒91%】 ※昨年より6ポイント上昇。	少人数の良さを生かした特色ある学習指導が学力を向上させ、自己肯定感にもつながるのではないか。	B
	学習意欲の向上に向けた教育活動の充実	生徒の進路希望を踏まえた上で資格取得を奨励することにより、主体的な学習を促す。 委員会活動の活性化等により図書室利用を促進し、幅広い教養を身に付けさせる教育活動を推進する。	年間の資格取得者のべ人数が、 4 200人以上である。 3 150人以上である。 2 100人以上である。 1 100人未満である。 図書の年間貸出冊数が、 4 350冊以上である。 3 300冊以上である。 2 250冊以上である。 1 250冊未満である。	1	新型コロナウイルス感染症の影響で実施できない検定等が多かったため、合格者はのべ92人と減少した。 ※昨年より130名程度減。 臨時休業等の影響により、利用者数が減少した。図書の貸出数は約90冊であった。 ※昨年より260冊程度減。	コロナにより、資格取得が減少したのは仕方ない。また、図書の貸し出し数を増やすような取組を更に進めてほしい。生徒自身の将来にとって、幅広い教養を身に付けることの重要性を丁寧に指導してほしい。	B
生徒指導	基本的な生活習慣の定着と、挨拶や服装等の規範意識の確立	登校指導、昼休み巡視、下校指導、小月駅周辺の巡視等に加えて、挨拶・服装について重点的にきめ細かく指導する。	「学校は、マナーやルールを生徒にきちんと指導している」と評価した生徒・保護者の割合が、 4 85%以上である。 3 75%以上である。 2 65%以上である。 1 65%未満である。	3	昼休み巡視が効果的に行えなかった。単にルールだからと言って高圧的に指導を行うのではなく、ルールの意味とその重要性を説く中で、生徒が自ら挨拶や服装の意味とその重要性に気づくような指導に取り組んでいる。また、家庭の協力も必要不可欠である。【学校アンケート結果⑤学校は、挨拶や頭髪・服装などのきまりや校内清掃など、社会で求められるマナーやルールを、生徒にきちんと指導している。:生徒92%保護者81%】	マナーやルールが守れない生徒に重点を置き、継続的に全教員で寄り添い、個々の成長を評価しながら改善に努めてほしい。	B
		生徒一人ひとりを大切にする教育の推進	教育相談等を充実させ、円滑な人間関係作りに取り組む。	「学校は、生徒一人ひとりを大切にする教育をしている」と評価した生徒の割合が、 4 85%以上である。 3 75%以上である。 2 65%以上である。 1 65%未満である。 「いじめは絶対に許されない行為である」という本校のいじめ防止の考え方を理解しているという生徒・保護者の割合が、 4 85%以上である。 3 75%以上である。 2 65%以上である。 1 65%未満である。	4	保健室、教育相談を中心に、生徒の悩みや不満に誠実に対応し、その解決のために全教職員が協力している。 「いじめは絶対に許されない行為である」ということが、「いじめを行った生徒を絶対に(永久に)許さない」と同一に解釈されがちであるが、より多くの生徒・保護者に理解を得られるよう、誠実に対応していきたい。【学校アンケート結果⑥学校は、教育相談を充実させ、円滑な人間関係作りに取り組むなど、生徒一人ひとりを大切にしている。いじめ防止・早期対応に学校全体で取り組んでいる。:生徒88%保護者77%】	生徒一人ひとりと向き合っている点は評価できる。引き続き学校全体で取り組んでほしい。

評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
生徒指導	健康管理や安全教育の促進	「保健だより」を発行するなど、生徒の保健に対する意識向上に向けた啓発を行う。	「保健だより」の年間の発行数が、 4 12回以上である。 3 10回以上である。 2 8回以上である。 1 8回未満である。	4	新型コロナウイルス感染症対応を含め、「保健だより」を定期的かつ効果的に発行することができた。年間13回発行した。	スマホ、ゲームとの関わりが、高校生にとって大きな課題となっている。今後もメディアに関わる取組を継続して行ってほしい。	B
		「生徒課だより」の発行や、防犯教室・避難訓練・薬物乱用防止教室等の実施により、生徒の安全対応能力の向上を図る。	「学校は、生徒の安全対応能力の向上に取り組んでいる」と評価した生徒の割合が、 4 85%以上である。 3 75%以上である。 2 65%以上である。 1 65%未満である。	4	「生徒課だより」の発行や各種行事を実施する中で、生徒の意識や安全対応能力の向上を図り、それらに加えて、全校集会の際にはSNSの危険性や正しい使用についても伝えた。【学校アンケート⑨学校は、避難訓練や薬物乱用防止教室など、生徒の安全対応能力の向上に取り組んでいる。:生徒96%保護者90%】		
	生徒の自主的・自立的な活動の推進	朝の挨拶運動や体育大会におけるマスゲーム・応援合戦等とおして、生徒の主体的・自発的な活動を促進する。	「学校は、体育大会等の学校行事を充実させている」と評価した生徒の割合が、 4 85%以上である。 3 75%以上である。 2 65%以上である。 1 65%未満である。	4	新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、体育大会、文化祭をはじめとした行事を、生徒会が中心となって運営した。新生徒会役員には15名が就任した。今後は専門委員会活動を活性化させ、行事だけでなく学習や行動面等でも生徒会が中心となって課題に取り組むことが期待される。【学校アンケート結果⑧学校は、文化祭や体育大会など、生徒が自主的・主体的に活動できるよう学校行事を充実させている。:生徒97%保護者92%】	日頃の生活の中で、生徒の動きを見ていると、とても良いと感じられる。生徒の表情も明るい。今後一層挨拶などの取組を進めてほしい。	B
進路指導	進路実現に向けた基礎学力の定着・向上の取組	朝学(マナトレ、コラム、英単語・漢字学習など)やOne Weekトライアル、小論文指導等を通じて、基礎学力の定着・向上を目指す。	高等学校卒業後に求められる基礎学力が身に付いたとみなせる生徒の割合が、 4 90%以上である。 3 80%以上である。 2 70%以上である。 1 70%未満である。	3	基礎力診断テストの結果、高校卒業後に求められる学力が身につけている(D2以上)生徒の割合が全体で84.4%である。※一昨年より0.4ポイント、昨年より0.2ポイント下降。特に、3年生が78.7%と低い水準となっている。※一、二年生は3学期実施分、三年生は1学期実施分で集計	基礎学力向上は進路実現に深く関わっている。朝学等の取り組みを更に充実させてほしい。	A
	望ましい職業観・勤労観の育成	進路ガイダンス、キャリア講演会、インターンシップ、上級学校見学や企業見学等を実施し、望ましい職業観や勤労観を育成する。	「学校は、きめ細かな進路指導をしている」と評価した生徒の割合が、 4 90%以上である。 3 80%以上である。 2 70%以上である。 1 70%未満である。	4	【学校アンケート結果⑦学校は、キャリア講演会、上級学校・職場見学の学校行事やCAP・LHRなど、きめ細かな進路指導をしている。生徒95.2%】※昨年より0.2ポイント上昇。	望ましい進路の実現に向けて、ガイダンスやインターンシップを更に充実させ、早期の職業観、勤労観を身に付けさせてほしい。	A
	個性や適性に合ったきめ細かな進路指導の実践	進路適性検査、進路説明会、個人面談や各学年団との連絡を密に取り、生徒一人ひとりの希望と適正に応じたきめ細かな進路指導を行う。	「学校は、きめ細かな進路指導をしている」と評価した保護者の割合が、 4 90%以上である。 3 80%以上である。 2 70%以上である。 1 70%未満である。	4	【学校アンケート結果⑦学校は、キャリア講演会、上級学校・職場見学の学校行事やCAP・LHRなど、きめ細かな進路指導をしている。保護者91.2%】※昨年より0.2ポイント上昇。	個人面談や教員間での生徒情報の共有を通して、きめ細かい、丁寧な指導を引き続き行ってほしい。	A
総合生活科	総合生活科の活性化	地域社会や関係機関と連携した教育活動を充実させる。	地域社会や関係機関と連携した学習活動を実施した回数、 4 15回以上である。 3 10回以上である。 2 6回以上である。 1 6回未満である。	4	今年度は新型コロナの影響で取りやめたものもあったが、地域社会や関係機関と連携した授業の実施は16回であった。それぞれの学習目的の理解と学習活動の充実を図るために、事前学習を行うとともに、事後活動としてレポート作成等を行っている。	学科の特性を生かし、地域や企業と連携した教育活動ができています。今後小中学生とも交流してほしい。	A
		専門的な技術の習得や資格取得を促す。	家庭科技術検定2級以上の取得者が 4 62名以上である。 3 40名以上である。 2 20名以上である。 1 20名未満である。	4	1・2級の取得者は延べ77名であった。技術検定は専門的な知識と技術を習得するとともに、課題達成に向けて計画的に取り組む力の育成及び忍耐力や地道に努力する学習態度を身につけることを目的としている。	専門的な技術を学ぶ学科なので、全ての生徒が技術検定が習得できるよう、粘り強く指導してほしい。	A
1学年	基本的な生活習慣の確立	保護者と綿密な連携をとり遅刻や欠席の未然防止に努めるとともに、学年で生徒の様子について情報を共有する。	年間の出席率が、 4 99%以上である。 3 98%以上である。 2 97%以上である。 1 97%未満である。	3	新型コロナの影響で家庭学習が続いたが、担任と保護者の連絡を密に取った。各生徒の学校での状況と家庭での様子の情報交換ができた。年度初め、一部の生徒にとって、高校での生活習慣を確立することが例年に比べて困難なようであった。	高校生活に慣れ親しみ、学校に行きたくなる環境づくりに努めてほしい。	B
2学年	基本的な生活習慣の確立と基礎学力の向上	家庭との綿密な連携を図ることにより遅刻や欠席の未然防止に努める。朝学等を活用し基礎学力の定着と、早期の進路決定に向けての指導を充実させる。	遅刻・早退の年間回数が7回未満の生徒の割合が、 4 95%以上である。 3 90%以上である。 2 85%以上である。 1 85%未満である。	3	12月末時点で、遅刻・早退の回数が7回以上の生徒は7名いた。体調不良や家庭都合による理由であるが、遅刻・早退の年間回数が7回未満の生徒の割合は90%であった。引き続き3月末まで、全員の進級に向けて努力したい。	将来の方向性を早期に定める重要な時期であるので、より一層個人の適性に合ったきめ細かい進路指導をしてほしい。	B
3学年	全員の進路実現を目指した情報提供と進路学習の徹底、効果的な進路指導	進路情報交換会・学年会等での情報共有やCAP・LHRの効果的な活用等、進路指導課と連携した指導を充実させる。	自らが決めた希望進路を実現できた生徒の割合が、 4 90%以上である。 3 80%以上である。 2 70%以上である。 1 70%未満である。	4	新型コロナの影響もあり、就職希望者の希望進路実現が例年に比べ厳しかった。しかし、12月末時点で、進学希望者も合わせた進路未確定者があと5名となった。引き続き3月末まで、全員の進路実現に向けて取り組む。	希望する進路が実現できるよう、情報提供や進路指導を徹底してほしい。	A
事務	安心安全な教育環境整備	定期的に日常点検を行い、施設・設備の危険個所に早期に対応する。	日常点検について 4 毎週行い、1週間以内に改修した。 3 毎週行い、2週間以内に改修した。 2 毎月行い、1カ月以内に改修した。 1 不十分で、早期に補修できなかった。	4	定期的な点検実施により、危険発生の未然防止に努めた。	安心・安全な教育環境を維持することはとても大切なことである。早期の改修もできている。	A
		限られた予算を効率的に執行し、最大限の効果を上げる。	事業計画に参加し、目的に沿った予算運営の達成率が、 4 90%以上である。 3 80%以上である。 2 70%以上である。 1 70%未満である。	4	県の財源不足が深刻な状況のもと、限られた予算の中で、費用対効果を意識した予算運営ができた。新型コロナへの対応として、可能な限り教育環境整備に努めた。	生徒が安心して学べる、明るい教育環境に努めてほしい。	A

評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
業務改善	学校の組織等 情報の共有化と連携の強化	ゼロベース思考に基づく各分掌の業務内容の見直しにより、組織力の一層の強化を図る。	取組の実施後、アンケート等を行い、課題を共有し、 4 改善への見通しが立てられた 3 ある程度改善への見通しが立てられた 2 改善への見通しは十分に立てられなかった 1 改善につなげられなかった	3	業務改善のための現状把握や、課題の明確化、現在実施しているルールの整理については行うことができた。このことにより、ある程度改善への見通しは立てられたので、実施に向けて更なる見直しをしていきたい。	業務改善が達成でき、それによる教員のゆとりが、生徒への良い指導につながっている。	A
	日常的な業務 会議等の効率的な運営	事前打合せの実施やICTの活用等により、効率的な運用を図る。	1時間以内で終了できた会議の割合が、 4 ほぼ100%である。 3 90%以上である。 2 80%以上である。 1 80%未満である。	4	長時間の会議はなくなり、勤務時間内に終わらせようと教職員全員が尽力している。ICTの活用により、資料のペーパーレス化にも取り組んでいきたい。	会議時間が短いのは良い。	A
	勤務状況 温かい職場環境づくり	勤務体制にゆとりをもたせることにより、教職員の活力を養う。	教職員の時間外業務時間数の月平均が、 4 37時間未満である。 3 37時間以上、40時間未満である。 2 40時間以上、43時間未満である。 1 43時間以上、45時間未満である。	4	昨年度時間外業務時間数の月平均が32時間であったが、今年度は22時間となり、大幅に削減できた。ただし新型コロナウイルスによる在宅勤務や部活動の自粛等の影響も考えられるため、来年度に向けて維持できるようにしていきたい。	時間外業務時間の月平均が22時間であるのは非常に素晴らしい。	A

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

【学校運営】今年度より、コミュニティ・スクールが始まり、地域連携教育にますます力を入れていかなければならない中で、学校運営協議会等で地域の方から本校に対する御意見、御要望を聞く機会が数多くあった。その中で特に田部高校の魅力についての発信や、高校卒業後の進路の充実が求められていることがわかった。

【学習指導】臨時休業等の影響により、教育課程の遅れが懸念されたが、夏季休業の縮減・学校行事の削減・授業の工夫により、ほぼ例年並みの実施ができた。今後は、基礎学力定着のための手だての工夫や資格取得への意欲喚起が課題である。

【生徒指導】多くの課題を抱えながらも、少しずつ生徒が落ち着いてきている。生徒・教職員一人ひとりが、自分のすべきことを考え、行動することが求められている。良いことは良いとしっかりほめてあげる優しさと、ダメなことはダメと叱ってあげる厳しさを兼ね備えた教職員集団でありたい。

【進路指導】コロナ禍にあって、進路決定時期が遅くまでずれ込んだり進路変更等が多く出てくるのが心配されたが、ほぼ例年通りに進路先を決めることができた。また、就職と進学と両方で新規に進路開拓ができたことが、今年度の成果として挙げられる。課題は、全ての教育活動が、進路指導につながっているという意識を全教職員が自覚し、日々の指導にあたる意識づくり、体制づくりが必要である。

【総合生活科】コロナ禍の中でこれまでと同様に実施することができないものもあったが、外部機関との連携は、より専門的な知識や技術の習得及び生徒の社会性の育成につながっている。今後とも教育内容の充実を図るための継続的な取り組みと実施方法についての検討が課題である。

【1学年】年度の初めは新型コロナの影響で家庭学習期間があったが、面談やFitなどを活用して生徒の入学後の状況把握に留意した。

【2学年】コロナの影響で学校での取り組みが制限されたが、種々の工夫により、ほぼ例年通りの成果が得られた。ただ、修学旅行を中止することになったのは残念であった。

【3学年】新型コロナの影響で入社試験の時期がずれ、就職向けと進学向けの指導が錯綜したが、教員間の連携ときめ細かい個別指導で乗り切った。

【事務】コロナ禍の中でも、日常点検等により教育環境整備の充実が図られた。より一層予算の効率的執行に努めたい。

【業務改善】改善に向けて、現状の把握、課題の洗い出しを行い、次年度につなげていけるような道筋を示した。職員の働き方改革のため、業務の内容を精選して、業務量を平準化していきたい。

7 次年度への改善策

【学校運営】次年度も、地域連携教育に一層力を入れていく必要があるが、コロナ禍においてどのように行事を運営し、地域人材を活用した取組を実施していけるか、しっかり議論し、それにより田部高校の魅力を伝え、また生徒の成長が促されるような学校づくりをしていきたい。

【学習指導】ICT教育を含めた学習環境を整え、学習習慣の確立、基礎学力の充実および進路目標を見据えた学力の向上に努めたい。

【生徒指導】生徒会規約に則り、評議会を学期ごとに開催する。また専門委員会を定期的に開催し、その活動を活性化させる。生徒に対して、あらゆる教育活動において、粘り強く指導を行っていく。

【進路指導】進路決定状況が、それまでの学校としての指導の評価であるという意識を持ち、反省点を次年度に改善していくという取り組みが必要であり、そのためには進路指導が上手くいかないことを生徒だけのせい、こしない姿勢が大切だということを共通理解することが大切であると考え。具体的には、朝学の充実やCAPの計画の見直し、ガイダンス等の行事を(例年通りとするのではなく)精査することなどが挙げられる。

【総合生活科】今後も実施方法を検討しながら外部機関や地域と連携した取り組みを継続するとともに、生徒の教育活動の充実と生徒の社会性の育成や将来へ向けての職業観や倫理観の育成につながるよう努めたい。

【1学年】本年度に中止になった行事も来年度には実施する可能性があるので生徒たちにはしっかりと取り組んでほしい。

【2学年】いよいよ来年度は最上級生である。早め早めの準備と計画で自己実現に向け努力させたいと考えている。

【3学年】コロナ禍の厳しい影響に備え、次年度当初から各生徒の基本的な生活習慣の定着と進路意識の向上を図る必要がある。

【事務】今後も効率的に教育環境整備ができるような仕組み作りに取り組んでいきたい。

【業務改善】次年度に向けて、業務の効率化を進め、業務量の平準化をめざしていきたい。ICTを積極的に活用することで、職員にとって働きやすい環境をめざしたい。